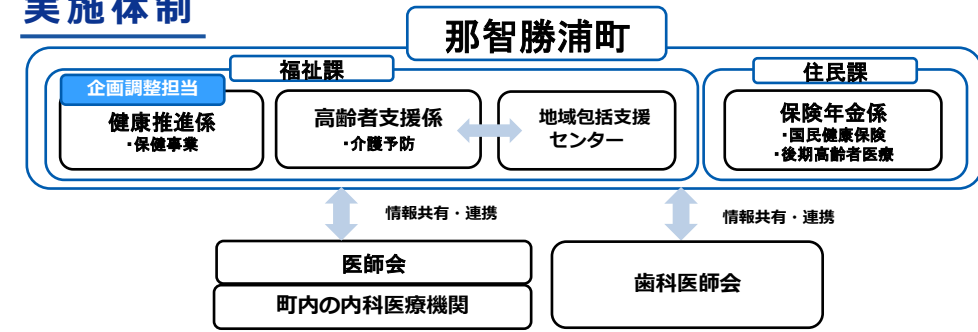


町の概況(令和5年3月31時点)

人口	13,942人
高齢化率	43.5%
日常生活圏域数	2圏域



実施体制



▼一体的実施開始前からの取組み

- 生活習慣病予防の教室
- 老人会・サロンで健康関連出張講話
- ゆうゆう体操(通いの場)
- 特定健診保健指導(～74歳まで)

想い

- より地域に出ていく機会を増やしたい
- より多くの対象者に事業を実施したい
- より効果的に実施したい

▼一体的実施での取組み

- 地域に出る!
- 多くの対象者に!
- 多くの対象者に!
- より効果的に!

- 新規** 高血圧対象者への訪問指導(ハイリスクアプローチ)
- 充実** 新型コロナウイルスワクチン集団接種会場にて健康教育動画を流す(ポピュレーションアプローチ)
- 充実** スーパーやドラッグストアと連携し減塩味噌汁の試食会を開く(ポピュレーションアプローチ)
- 充実** 町内の通いの場で高血圧予防に関する健康教育・健康相談(ポピュレーションアプローチ)

ここがポイント

那智勝浦町のチームワーク

- ・「令和6年度をまたずに令和2年度から実施しよう」「専門的なこと以外はすべて引き受ける」と事務職員から呼びかけがあり早期にスタート。
- ・町全体でコミュニケーションをとりやすく、意識形成や情報共有がスムーズだった。
- ・医師会との連携に加え、町内の医療機関に個別訪問し、一体的実施についての理解促進をはかった。
- ・事務職員が、ハイリスクアプローチの訪問同行と一時記録、ポピュレーションアプローチの補助を行うことで事務職員も現場を知ることが出来る。→現状を生で見ることで、事務職員の意見も反映することが可能になり、取組内容の深化につながった。

PDCAを意識した取組

- ・「事業開始前の入念な打合せ」、「評価時の関係者全員による会議」「事後の反省会」を徹底するよう意識している。また、話し合いは、形式的なものではなく、感想や案出し等率直な意見を議論する場とすることで、より柔軟な発想が生まれるようになっている。
- ・反省会で得た課題をそのままにせず、次回以降の取組みで活かすことを心掛けている。

和歌山県那智勝浦町

事業結果と評価概要(令和4年度結果)

		対象者数	参加者数	評価指標	状況(評価結果)
ハイリスクアプローチ	健康状態不明者	63人	59人	①健診受診勧奨者数 ②医師連絡票による医療機関受診勧奨者数 ③血圧に関して保健指導した人数、内容、反応	①健診受診勧奨者数：39名 ②医療機関受診勧奨者数：18名 その他41名の参加者は、心疾患予防やフレイル予防等の保健指導実施や地域包括支援センター等へつないだ ③血圧に関する保健指導をした方の反応：保健指導した人数は36名、対象者の理解度の把握は今後の課題。
ポピュレーションアプローチ	健康教育 健康相談	-	23か所 241人 (延べ)	①対象箇所数、事業実施箇所数、参加人数(延べ)、健康相談数 ②参加者の満足度・理解度、健康教育後のアンケートの集計結果、健康相談の内容、血圧に関する指導をした人数、内容、反応	①対象箇所数：32か所、事業実施箇所数：26か所、参加人数：(延べ) 241名、健康相談数：2件 ②参加者の満足度・理解度：良好なコメントが多く、健康教育の内容から行動を変えたという感想が見られた。健康教育後アンケートの集計結果：減塩を心掛けていると答えた方が回答者のうち75.9%。 血圧に関する指導をした人数、内容、反応：個人的な血圧に関する指導の実施はなかった。

- 令和4年度からは、中長期的な視点で事業を実施することとし、「高血圧・心疾患の重症化や発症の予防」をテーマに据えて事業を行うこととなった。
- 町内で後期や国保の健診を実施している医療機関をすべてまわり、「受診勧奨に適切な血圧値、もしくは受診に必要な手順」について基準を定めた。
- 令和4年度ハイリスクアプローチの目的として、「受診が必要な人に受診してもらえるように医療につなげること」を最優先に考え、より受診につながるよう対象者の条件に「90歳未満」と年齢制限を追加した。しかし、結果は医療受診勧奨した方で医療受診された方はおらず、受診に繋げる事の難しさを感じたためアプローチの変更を検討した。
- ポピュレーションアプローチでは、管理栄養士とともに「高血圧予防教室」を通いの場で実施した。濃度の違うみそ汁の飲み比べや、塩分チェックシートの記入など、ただ話を聞くだけでなく体験型の教室にし、記憶に残ること、自身の生活を振り返るきっかけとなることを目指した。
- 通いの場はある程度健康に関心が高い方が多く集まることから、令和5年度からは「通いの場に集まっていない高齢者」に働きかけていくことも並行して考えることとなった。

課題・今後の展望

- ハイリスクアプローチについて
 - ・各年齢層への、対応方法、関わり方などを検討していく必要がある。
 - ・町内の医療機関への相談については、事業内容の周知や相談できる環境の構築の意味でも継続的に行っていく必要があると考える。
- ポピュレーションアプローチについて
 - ・参加者は、高齢層の方が多いため、一度に多くのことを伝える健康教育ではなく、なにか1つでも印象に残るような健康教育を考えていく。今後も体験型の健康教育を実施していく方針で検討。
 - ・スタッフの調整(人数、職種、組み合わせ等)については、健康教育の状況を見ながら調整していく。
 - ・アンケートについては、参加者の状況等多くの情報が得られたため、参加者の負担にならない範囲で継続的に実施し、データを蓄積し分析等に活用していく。